

(様式1)

自己評価票

作成日 平成22年12月 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872100409		
法人名	株式会社 ありが園		
事業所名	グループホーム ありが園	ユニット名	A棟
所在地	〒311-1201 茨城県ひたちなか市阿字ヶ浦町187番地45		
自己評価作成日	平成 年 月 日	評価結果 市町村受理日	平成22年12月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年8月19日	評価確定日	平成22年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご利用者様一人ひとりができる事、したい事をできる限り対応し、家族的な雰囲気の中で、楽しく穏やかに生活して頂ける様支援していきます。</p> <ul style="list-style-type: none">・毎日の散歩（目の前の海へ）や家庭菜園作りを通し日々活動的に生活して頂く。・地域交流での清掃活動参加や、地元学生の介護体験学習受け入れ、地域ボランティアとの楽しみ等。・阿字ヶ浦海岸花火大会、園の庭でテーブル、椅子でゆったり鑑賞。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>利用者は近くの海岸へ毎日散歩に出かけるほか、地域で行う海岸の清掃活動に参加して近隣住民と顔馴染みになっている。</p> <p>管理者は利用者の日々の暮らしが単調にならないよう、季節毎の海浜公園等への外出のほか、毎年事業所に家族等を招いて近くの海岸の花火大会を鑑賞したり、庭での流しそうめんを計画して支援している。</p> <p>職員は地域交流委員会を発足して地域との交流の機会を計画し、地域の祭り等に参加するとともに小学校の音楽会や給食会の招きに応じたり、事業所の敬老会に地域住民を招待するなど積極的に交流している。</p> <p>事業所は毎年地域の中학생や高校生への介護体験学習を受け入れているほか、管理者が認知症の理解を深めてもらうために地域等で熱心に活動しているため事業所への理解が深まっている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の定例会の中で理念に基づき実践する。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を全職員で話し合い作成している。毎月の定例会で理念について話し合い共有を図るとともに、職員は常に理念カードを携帯し実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会への理解を深め積極的に清掃活動にも参加。地域ボランティアのつながり、地元学生の介護学習の受け入れ、交流。	利用者は近隣住民と散歩などで挨拶を交わしたり、地域の清掃活動に参加するなど日常的に交流している。地域の祭りや小学校の音楽会、給食会に招かれたり、事業所の敬老会に近隣住民を招待している。事業所では地域の中学生や高校生の介護体験学習を受け入れるほか、ボランティアとの交流も盛んである。職員は地域交流委員会をつくり、積極的に地域との交流を企画し実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老の日には事業所全員で利用者を祝うと共に近所の方々に声かけ、一緒にの時間と食事を楽しむ。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動報告、サービス内容で地域とのかかわりなど貴重な意見交換により、サービス向上に活かせる会議であり職員全体の質の向上につなげるよう後日話し合いをもつ。	運営推進会議は家族等の代表や利用者、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員、駐在所の警察官、地域住民、近隣旅館や美容室などから参加を得て2ヶ月に1回開催している。会議では利用者の状況やサービス内容、行事などの活動報告をするとともに、出席者の意見や助言を得ながら外部評価結果で明らかになった課題等についても話し合いサービス向上に活かしている。前回の外部評価結果を受けて、運営推進会議の内容を職員に周知するとともに、話し合っ課題の改善に取り組んでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは連絡をとり、事業所の実情やケアサービスの取組みを伝えながら指導を受けている。	市担当者が運営推進会議に出席しているほか、管理者は市担当者に日頃から事業所の実情やサービスの取組みを伝えながら指導を受けるなど、連絡を密に取り協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠はしない。利用者の自由な行動を見守り寄り添ったケア。	マニュアルを作成し外部研修や内部の勉強会で全職員が身体拘束について理解をしている。 職員はミーティングや申し送りで話し合うほか、身体拘束排除委員会を発足し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 玄関や居室は施錠せず利用者が外に出て行ってしまいそうな場合は、職員が付き添い自由な生活ができるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉かけのトーンや連携の違いなどで苦情としてあげられる事はあるが、すぐに対応して利用者を苦しめない話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	少し前に制度利用者があり、学ぶ機会もあり理解している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時十分な説明を行い、長期利用でその時々重度化に伴う負担等についても再確認の話し合いがある。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価でのアンケート調査結果を職員で集計、意見交換をし、運営に活かしている。	玄関に意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記し利用者や家族等に説明している。 毎月家族等へ介護計画を説明する際に、意見や要望を聴くように努めている。 出た意見や要望は苦情処理記録簿に記録し、全職員で話し合い運営に反映させている。 意見や要望が出易くなるよう毎月事業所だよりを発行し、家族等に利用者の生活状況を知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会での職員の要望や意見交換で改善を検討する。	管理者はミーティングや運営会議で職員から意見や要望を聞く機会を設け、出た意見等を運営に反映させるとともに、食事会やイベントなどを開催し職員とのコミュニケーションを図り意見や提案を気軽に伝えられるような雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が安心して働けるように不満やストレスなどに常に耳を傾け、話しやすい場を作り、仕事に意欲の持てるよう考えています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や自己学習への方向へ働きかけ、常に向上したケアが出来るよう努力できる環境を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者のイベント参加見学や職員による発表会などの受講。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちを理解しながら様子やしぐさ、症状すべてを受け止めることに努め、安心と環境を理解する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いに耳を傾けながら、不安や要望を理解できる関係に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の必要なサービス支援の見極めと幅広いサービス利用への説明支援。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の大先輩として尊敬の心を持ち、喜怒哀楽を共にしながら安心と信頼関係を築く。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態や気付き、本人の要望など毎月の「お知らせ」として送付している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室を利用したり、季節毎に実家に帰り、農作物を味わったりしている。	利用者の知人や友人が来訪しているほか、職員は利用者が馴染みの美容室に行ったり、外泊して家族等と墓参りをしたり兄弟に会えるよう支援し、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や要望にに耳を傾け、テーブル配置や利用者同士の関係性を大事に、日々の暮らしを試行錯誤している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の情報提供。 本人の生活していた習慣や得意な事を続けていただく支援。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	誕生会など本人希望を取り入れ、外出、外食などの支援。	職員は利用者のこれまでの生活歴を参考にしながら一人ひとりの思いの把握に努めている。 日々の係わりの中から把握した利用者の様子を記録し、サービス改善会議等で話し合い利用者の思いや希望にそった生活ができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートの活用と本人、家族からの情報収集。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、日々の記録、バイタルチェック等で把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者状況に応じ、介護計画とモニタリングを作成している。	職員は利用者毎の記録日誌で情報を共有するとともに利用者や家族等の意見や要望を聴き、意向にそった介護計画になるよう取り組んでいる。 作成した介護計画は毎月モニタリングを行うほか、サービス担当者会議を介護支援専門員や職員、家族等、医師、看護師で定期的開催し見直しを行うとともに、利用者の心身の状態に変化が生じた場合もサービス担当者会議で検討し、現状に即した介護計画になるよう取り組んでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、業務日誌。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイの受け入れ		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、包括、民生委員、ボランティア、警察、美容室、旅館。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ主治医。協力医による月2回の訪問診療。	利用前のかかりつけ医への受診を支援したり症状により他の医療機関への受診を支援しているほか、協力医療機関による月2回の訪問診療があり、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員による毎日の健康管理と、訪問看護師による医療支援。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関には情報交換や相談しながら支援いただいています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員全体で話し合いを持ち、出来ることを説明しながら家族、医療機関との連携。	事業所は利用者が重度化した場合や終末期のあり方について家族等と同意書を交わしている。 看取り介護実施要綱を作成し職員の体制を整えるとともに、早い段階から利用者や家族等と話し合い事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、関係者と協議しながら支援に取り組んでいる。 事業所ではこれまでに看取り介護を経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修参加や園内研修を積極的に受講し、ケア向上につなげています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・園内研修、防災研修、避難訓練の実施。 ・地域協力委員への参加、呼びかけ。 ・災害時備蓄の整備。	非常時対応マニュアルを作成し、消防署の協力を得ながら年2回避難訓練及び消火訓練を実施している。毎月火災防止点検チェックを行うとともに避難経路を確認している。災害の発生に備え食糧品や飲料水、医薬品等を備蓄し3ヶ月毎に点検を行っている。 避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。	前回の外部評価結果を受けて近隣住民に避難訓練への参加を呼びかけ、次回9月の避難訓練に近隣住民や駐在所からの参加が得られることになっているので、実現することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関して常に心がけている。言葉かけや人格の尊重。個人情報改善に取り組んでいます。	職員は常に利用者一人ひとりの尊厳ある姿を大切にしながら、排泄や入浴時の誘導などへの対応は目立たずさりげない言葉かけにより行っている。 管理者は内部研修会を開き、修了後アンケート調査をするなど職員の意識向上に努めている。 職員は接遇委員会を作り年間のテーマを決めて実践に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の書棚に保管するなど取り扱いには十分注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己希望を大事に支援につなげている。外食時の希望や支援の決定。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状態観察後、その人らしい支援。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の美容院の訪問整容。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニュー表。 野菜の下ごしらえの参加。 配膳、食器の準備や茶碗拭き。	職員は利用者と一緒に会話をしながら楽しく食事ができるよう支援している。 献立は管理栄養士である施設長が作成しているが、利用者の希望や行事用の献立を取り入れて変化のあるものとなっている。 利用者は野菜の下ごしらえや準備、後片付け、食器洗いなど一人ひとりの能力を活かしながら職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量観察記録。 水分チェックの把握。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回施行。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄習慣の把握と個人個人の誘導。	職員は排泄記録表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともにタイミングを見計らって声かけし、日中は紙おむつの使用を避け布パンツで過ごせるよう支援している。 目標を決めて歩行器で廊下を歩くなどのリハビリを行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。 介護度の高い利用者にはおむつ使用に関するモニタリングを継続して行っており、その支援経過記録は職員の励みになるとともに意識向上につながっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックで理解する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人希望日に声かけしながら楽しんでいただく。	日曜日を除いて毎日入浴できるよう、利用者一人ひとりの希望に応じて支援している。 入浴を拒む利用者には体調や状態に合わせて言葉かけを工夫したり、シャワー浴を支援するなど無理のないよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースに合わせて、良い眠りを支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状況変化時の薬は全員で確認する。効能や副作用にも気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事への支援。 洗濯たたみやおしぼりまるめ 楽しみな食事の準備と片付け。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> • 毎日の海岸周辺への散歩 • 季節毎の花見やドライブ。 • 家族による外出、外食。 	<p>利用者は職員と一緒に近所の海岸へ毎日散歩に出かけているほか、花見や紅葉狩りなど季節毎に外出したり、毎年開催される近所の海岸の花火大会を家族等と一緒に事業所の庭で鑑賞している。</p> <p>利用者は家族等の協力を得て、外出や外食、温泉旅行などに出かけている。</p>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は自己管理していません。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話や手紙交換は自由に出てきます。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活しているように感じている方もいます。個室で安心があり、ホールでも仲良く生活できています。	<p>共用空間は天井が高く十分な採光を取り入れるとともに、海からの風が吹き快適に過ごせるよう工夫している。</p> <p>玄関ホールや各所にテーブルと椅子を置き、利用者が寛げる場所づくりをしている。</p> <p>廊下には俳句クラブや書道クラブで制作した利用者の作品のほか、鉢植えの花や植物を置いて季節を感じながら過ごせるよう配慮している。</p> <p>窓際に植えた朝顔やゴーヤは利用者が水やりをして育て、ホールで寛ぎながら間近に見ることができ、居心地良い空間づくりに一役買っている。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数で過ごせる空間もあり、行き来自由な環境になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での生活の延長のように家具や寝具の持ち込み、使い慣れた小物類の使用も自由に行っています。	利用者一人ひとりの居室に洒落たタンスを置くとともに、家族等の写真や利用者手作りの作品を飾っている。 時計やカレンダーを壁にかけて、利用者が日々の暮らしを自立して過ごせるよう配慮している。 利用者のお気に入りのスターの写真を飾り、音楽を聴きながら寛いで楽しく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーな環境。 ・廊下に続く手すりでの歩行訓練。 		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ありが園

作成日 平成22年12月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	火災や地震、水害等の災害時に昼夜を問わず利用者様が避難できる方法を全員が身につけると共に地域との協力体制を築く。	災害時に地域の人々の協力が得られる様、一緒に避難訓練を実施する。	平成22年9月29日 職員、近隣住民参加による避難訓練実施済み。	
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。